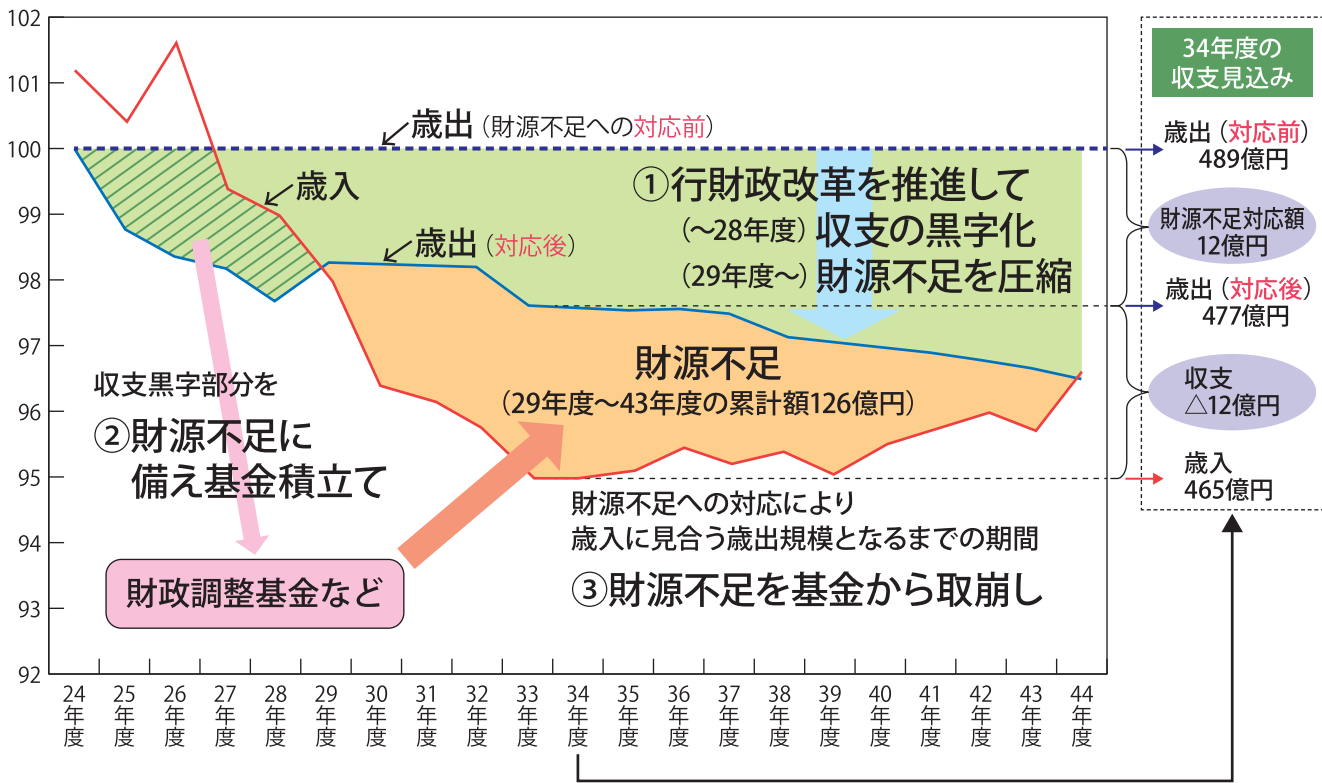
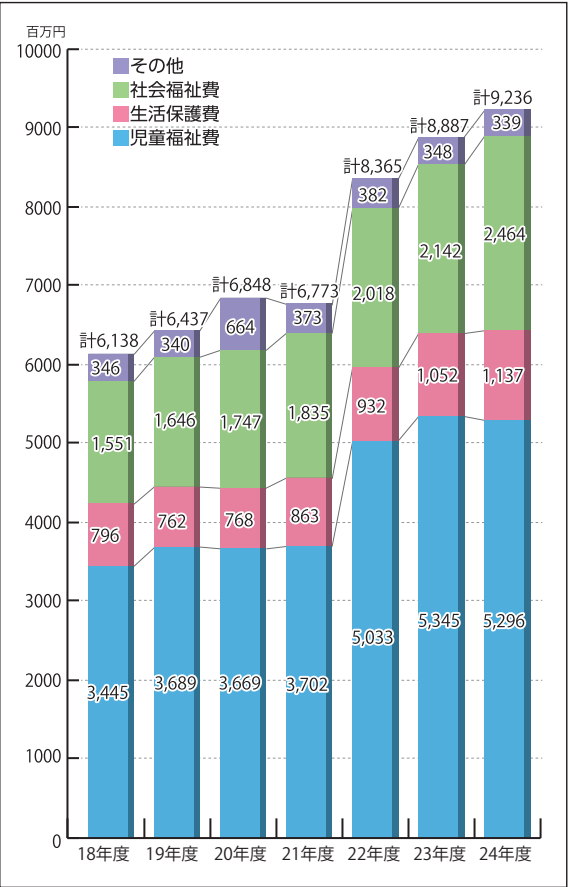


■図2 財政見通しのポイント

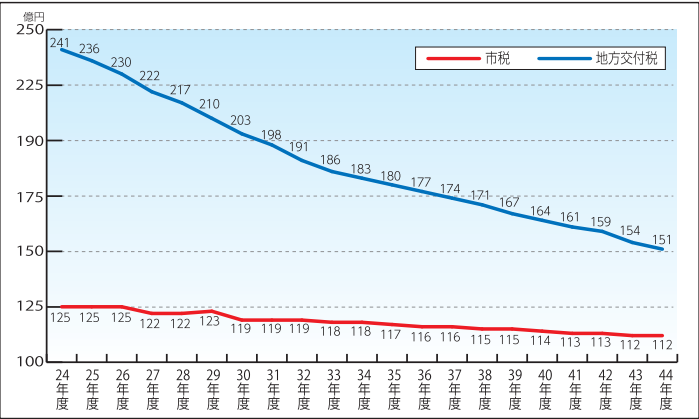


「財源不足への対応（行財政改革）を行わない場合の歳出」を100とし、それに対する「歳入」の割合および「財源不足対応後の歳出」の割合の推移をそれぞれ示したもの

■グラフ3 扶助費の推移（実績）



■グラフ2 市税・交付税の推移（見込み）



歳入の減少と歳出の増加
市の財政状況は、全国的な社会情勢や人口減少の見通しなどから、今後は歳入が減少し、歳出が増加すると考えられます。
ここでは、主にその状況が確実に見込まれる点について説明します。
◇減少する市税・交付税
市の歳入の根幹は、市税と地方交付税です。市税は、生産年齢人口の減少とともに、徐々に減収すると推測。地方交付税も人口に合わせて減少していきます。（グラフ2）
さらに今は、年間で約33億円の合併特例の割増交付を受けていますが、この交付も33年度になくなります。

定されると、市は国の管理下に置かれ、市民の皆さんにもさまざまな不利益が生じます。例として次のようなことが起こりうるのです。
◆市民税などの増税
◆公共事業の凍結
◆ごみ収集の有料化
◆公共施設使用料の大幅な値上げ
◆法律などの定めがある補助金以外は全廃 など
待ったなしの行財政改革
長期財政見通しは、行財政改革を実行した上で、市の財政が今後どのような姿になるのかを示しています。市は、こし5月に長期財政見通しを見直しました。現水準の歳出規模を継続すると財源不足が生じ、累計赤字が増え続けます。そこで今後は、大幅な行財政改革を進めて赤字を圧縮。それでも不足が生じる部分は、28年度まで累計126億円の黒字を捻出し、その積み立てた基金を取り崩しながら44年までのぐ計画にしています。（図2）
行財政改革が進まなかったり遅れたりすると、目指している収支均衡は達成できず、基金が底をつき財政は破綻します。そのような事態に陥らないように、計画的に行財政改革を進めなければなりません。

◇増大する扶助費
一方、歳出の削減は進まず、特に障がい者福祉や児童福祉、生活保護などの扶助費は年々増加（グラフ3）。新たな適正化計画での職員数削減で人件費を毎年度約4～5億円減額し、公債費も発行額の抑制などで毎年度1億円以上減額することになっていますが、それだけでは扶助費の増加分を賄えない状況です。
また、高齢化が進み、医療や介護などの費用もさらに増えていきます。
◇身の丈に合った歳出規模へ
本市の24年度普通会計において、人口1人当たりの歳出額は、55万円となっています。また、年度末の市債残高は68万円、近隣自治体の中では最も多い額。類似自治体平均よりも、約30万円ほど多くなっています。（表1）
この状況から本市は、市民1人当たりに係る経費は多いにもかかわらず、今後は市債の償還のために、さらに多くの財源を捻出しなければならないということが読み取れます。
◇財政破綻の危機
前述したとおり、本市の財政は合併特例で支えられていますが、将来、財源不足になることは明らかです。仮に、今の歳出規模を継続すると、あと数年で財政破綻に陥る危険性があります。国から財政再建団体に指

■表1 普通会計における近隣自治体などとの比較

	人口 (25年3月末)	24年度決算		1人当たり換算	
		歳出総額	市債残高	歳出総額	市債残高
盛岡市	294,435人	1,089億963万円	1,307億2,576万円	37万円	44万円
花巻市	101,026人	438億937万円	559億9,718万円	43万円	55万円
北上市	93,910人	342億4,194万円	447億3,134万円	36万円	48万円
一関市	126,957人	756億9,938万円	805億7,204万円	60万円	63万円
類似自治体平均	123,215人	492億8,880万円	498億5,952万円	40万円	40万円
奥州市	124,235人	682億1,210万円	847億7,825万円	55万円	68万円

類似自治体…全国自治体のうち本市と人口・産業構造が類似する11市

※1…市が直接集金する税金
※2…国税として徴収された後、地方に配分される税金
※3…市債の償還金

課題の解決は素早く
このように、人口減少などに端を発した問題は、私たちの生活に大きな影響を及ぼします。また、自治体の適正規模以上の支出と借り入れは、近い将来に深刻な問題として直面することになります。
市は、市民の皆さんが将来の不安を抱く課題の解決を先送りせず、それにいち早く対応し、そして全力で取り組んでいきます。
今回は皆さんに行財政改革の必要性をお伝えしましたが、今後、市が皆さんと進める行財政改革の具体的な内容が固まりしだい、本紙を通じて再度その内容をお知らせします。
「今までどおり——」を期待しても、市や社会にその力はありません。避けられない社会の縮小から目を背けず、本当に必要なものを選択しなければならぬのです。
地域の活力を維持するためには、市民の皆さんの協力が必要です。今こそみんなで知恵を出し合い、力を結集しましょう。それが本市の明るい未来につながります。地域のために何をすべきか、一人一人が関心を持ち、そして自分たちの問題として真剣に向き合ってください。